

第2回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打ち合わせ会における専門家の意見①

患者数の増加が続いています。

地域では、東葛南部・東葛北部・千葉市ではステージ4(あるいはそれに近い状態)相当です。入院患者数も増加し531人です。地域によっては準備した病床数の50%を超過しました。昨年末から年始にかけての第3波に迫る勢いであり、通常の医療が提供できない状態が懸念されます。年齢では60歳未満で増加しています。特に20歳台の増加が著しい状態になっています。変異株で注目されているデルタ株(インド株)が検出される割合は30%を超えました。

悲観的なコメントが連続しました。前向きな点として、65歳以上の高齢者のワクチン接種率が80%を超えました。(1回目接種) この結果、入院患者に占める高齢者の割合は低下しています。

地域と年齢から、東京都での患者数増加は、隣接3県(千葉・神奈川・埼玉)に及んでいると考えられます。緊急事態宣言下の東京では患者数の増加が続いています。今後は、1都3県で歩調を合わせるような対応が求められことも想定されます。

これまでの対策で、最も有効な手段は人流を抑制することです。無観客での開催されるオリンピックですが、実際の競技が始まれば、人流が増加することが心配です。ここは、我慢です。テレビで(解説付きの)観戦をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を評価する打ち合わせ会における専門家の意見②

現状の評価と今後の見通し

- 千葉県内の新規感染者数は先週よりも更に増加しており、特に20代の新規感染者が急増している。
- 患者発生数が多い地域は、東葛地区、千葉市であり、都内との繋がりが強い地域での流行拡大が目立つ。
- 重症者数は先週と比較して大きな変化はないが、患者発生数の増加に伴い、今後、確実に増えることが予想される。
- 7月21日時点での確保病床の占有率は4割強であるが、このペースで増加すると、2週間後には8割を超え、通常医療が逼迫する可能性が高い。
- 自宅療養者の増加に伴い、夜間の救急要請や搬送事例が増加してきている。
- まん延防止等重点措置が延長された地域における、人流があまり減少しておらず、4連休などの影響もあり、感染者数は更に増えることが予想される。

必要な対策

- 人流を抑制して感染者数を減らすためのできる限りの対策を速やかに行う。
- 一都三県の流行状況は連動しているため、より厳しい感染対策を、統一して実施することが望ましい。
- 流行の中心である若年層に伝わるような、情報提供、協力依頼を行う。
- 今後、在宅療養が増えることは確実であるため、パルスオキシメーターの配布、在宅酸素導入の準備等、在宅療養患者のケアを行う仕組みを整備する。
- 入院病床を有効に活用するために、入院の必要性をしっかりと判断し、回復状況によっては、早期の自宅療養への移行などの選択肢も活用する。
- 高齢者だけでなく、若い世代にワクチン接種を行うことが、流行拡大抑制に有効と考えられるため、可能な限り速やかにワクチン接種を進める。